

トウキョウサンショウウオの幼生



2013年5月12日(日)、岩舟町にあるトウキョウサンショウウオの産卵地を訪れた。幼生は**3cm程度**に成長していた。トウキョウサンショウウオは、各地で絶滅の危機にさらされていて、栃木県では**絶滅危惧Ⅱ類**、佐野市と宇都宮市では**市の天然記念物**に指定されている。

トウキョウサンショウウオは、普段は唐沢山やみかも山などの人里に近い丘陵部の土の中などに生息しているので、成体の姿をみることはまれである。その姿を見ることができるのは、毎年、**1月～3月頃**に繁殖のために産卵場に降りてくる時期だけだ。岩舟町の産卵地では、今年は**1月15日**に最初の産卵があり、**4月4日**の最後の産卵まで、合計**81個**の卵のうを確認している。一匹のメスから、2個の卵のうが産み出されるので、おおよそ40匹のメス個体が産卵に訪れたことになる。その間、数十匹のオスは、産卵場でメスが一匹、また一匹と降りてくるのを集団でひたすら待っているのである。

この日は、最初の産卵から**約4ヶ月**が経過しており、大きく育った個体はあと1、2ヶ月ほど経つとエラが吸収されて肺呼吸となる。7月頃から上陸を開始し、一匹残らず山に帰って行くのだ。再び、この場所に帰ってくるのは**4、5年後**だろうか。その時には、下の写真のように繁殖に加わることになるのである。



↑ 卵を抱えたメス
(H25.3.28)



↑ メスを待つオス
(H25.3.28)



↑ 産卵場でメスを待っているオス
(H25.3.30)



↑ 卵のう(中には幼生)
(H25.3.30)